

『比較歴史社会学へのいざない——マックス・ヴェーバーを知の交流点として』（勁草書房）出版記念シンポジウム

比較歴史社会学の試み——日本と中国

このたび、昨年6月に奈良女子大学において、同大学のCOE事業（古代日本形成の特質解明の研究教育拠点）の一環として行われたシンポジウム「マックス・ヴェーバーにおける歴史学と社会学」の記録が、折原浩、小路田泰直、水林彪他著『比較歴史社会学へのいざない——マックス・ヴェーバーを知の交流点として』として、勁草書房から出版されました。つきましてはわれわれは、そこでの問題提起を踏まえ、同時に比較歴史社会学なる知をさらに深めるべく、次のようなシンポジウムを企画しました。奮ってご参加いただければ幸いです。

日時 2009年11月28日（土） 午前10時～午後3時頃

場所 早稲田大学国際会議場（総合学術情報センター） 共同研究室（7）

〒169-0051 新宿区西早稲田1-20-14 電話：03-5286-1755

<http://www.waseda.jp/jp/campus/waseda.html> 地図(18)の建物

内容

第1部（午前10時～12時）

『比較歴史社会学へのいざない』について・批判と反省

批評者 松井克浩（新潟大学・社会学）

菊 幸一（筑波大学・スポーツ社会学）

第2部（午後1時～午後3時頃）

比較歴史社会学の試み——日本と中国

話題提供者 折原 浩（社会学）

八ヶ代美佳（奈良女子大学・歴史学）

第3部 終了後簡単な懇親会を予定しています。（詳細は未定）

連絡先 奈良女子大学文学部小路田泰直研究室（0742-20-3311）

早稲田大学人間科学学術院山本登志哉研究室（HAE00142@nifty.ne.jp）